

ほけんだより

病児・病後児保育『みどい』
令和5年11月15日発行



今月のテーマは「**感染性胃腸炎**について」です！

感染性胃腸炎とは・・・

別名〈胃腸かぜ〉や〈お腹のかぜ〉とも言われて、大人から子どもまで移りやすく感染の拡大を引き起こしやすい病気です。

大きく分けて、ウイルス性のものと細菌性のものがあり、症状は主に嘔吐と下痢、発熱などの症状を引き起こします。

感染経路としては、外出時にウイルスや細菌が建物や室内の空気中に浮遊していて吸い込んだり、感染性胃腸炎になった人からドアノブ等を介してウイルスや細菌が手に付着し、その手で顔や口を触った際に経口感染するようです。

① ウイルス性の感染性胃腸炎（特効薬がない）

○ノロウイルス…主な症状は、嘔吐や下痢 家族みんなが移りやすい

○ロタウイルス…主な症状は、嘔吐や下痢 便の色が白い 発熱することもあり
予防接種がある

② 細菌性の感染性胃腸炎

主な症状は、嘔吐と下痢で特効薬のないウイルス性の場合と違って抗生物質が有効です。

感染性胃腸炎で嘔吐や下痢の症状が続く時は、脱水症状になりやすいので、少しずつ無理なく水分を補給しましょう。

〈2次感染予防〉



子どもがウイルス性胃腸炎に感染すると父母や兄弟姉妹も感染することがあります。

できるだけ使い捨ての手袋やマスクをし、素早く嘔吐物を処理してください。衣類は、塩素系漂白剤を使用するといいいのですが、しっかりと洗い流して、流水と石鹸でウイルスを流すだけでも随分違います。

ウイルスから身を守るためにも、外出後、食事前、トイレの後は、石鹸を使用して手洗い、うがいを心掛けましょう。